

松下幸之助記念志財団 研究助成
研究報告

(MS Word)

【氏名】黄 潔

【所属】(助成決定時) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

【研究題目】東アジアにおける追儼の伝播と変容に関する研究

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、漢民族の追儼儀礼の少数民族地域への伝播と展開に注目し、儼に関する信仰が伝承された社会の構造とその変遷を明らかにすることである。具体的には、現代中国にける華南地方の少数民族村落にみられる儼仮面などの民俗資料は、1980年代以降(文革後の復興期)、民族集落においてどのように使用されたのか、それに関連する社会組織はどのような特徴をもつのか、またそれらの鬼追いの仮面や衣装の民俗資料は、追儼と関わる儀礼においてどのような役割を果たしているのか、などについて明らかにする。さらに研究の視野を東アジアに広げ、日本の近畿地方・九州国東半島等で大晦日と節分の儀礼を調査し、中日韓三国を含めた東アジアの追儼儀礼についても比較研究を行い、追儼の東アジアにおける伝播とその変容について明らかにする。

【研究の内容・方法】(800字程度)

上記の目的を達成するため、研究期間において、主に中国西南部と西日本における資料収集・現地調査を行い、日本旧正月の修正鬼会や節分の行事に関する民俗調査を行った。

2020年1月には、名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターにて、日本各地における追儼または鬼払い行事に関する民俗資料の調査を行った。また南山大学南山宗教文化研究所にて、日本宗教文化関係のセミナーにて研究発表を行い、課題関係の日本民俗宗教に関する資料収集を行った。その後、本研究課題について、名古屋大学高等研究院客員教授阿部泰郎先生、名古屋市立大学人文社会学部教授吉田一彦先生と研究の打ち合わせを行った。

2020年1~2月には大分県国東半島にて、くにさき図書館と「弥生のムラ」の資料室において、大分県の修正鬼会などの文化財や鬼の仮面に関する資料調査を行った。また、国東市国東町成仏という集落にある成仏寺本堂で行われる修正鬼会(1月25日・旧暦正月1日)および神仏習合の歴史ある宇佐神宮の行事(1月30日)、豊後高田市にある天念寺講堂で行われる修正鬼会(1月31日・旧暦正月7日)に関する民俗調査を行った。そしてその後、3月上旬には奈良東大寺の二月堂で行われる、「修二会」という仏教寺院で行われる法会の中の一行事であるお水取りに関する民俗調査を行った。

ただ、新型コロナウイルスの影響で海外長期滞在が困難であるため、中国西南部の少数民族集落における追儼儀礼に関しては、できる範囲で関連する資料収集およびオンライン聞き取り調査を行ってきた。特に儼文化が現在もしばしばみられる、湖南省懷化市新晃侗族自治县(国家非物質文化遺産である「トン族の儼戯」の登録地)、広西チワン族自治区柳州市三江侗族自治县、貴州省貴陽市・黔东南州岑巩県・銅仁市徳江県などの地域において、2005年に国家非物質文化遺産となった少数民族の儼文化の歴史と現在について、資料調査を行った。

【結論・考察】(400字程度)

(1) 調査した湖南省新晃県、貴州省黔东南州の徳江県・銅仁市・岑巩県などの地域に伝承される少数民族の儼戯仮面は、四川閬公戯・広西師公戯など他地域の儼戯と類似するように、古代の追儼儀礼で悪霊を追い払うために行われた踊りから娯楽へと発展したものである。それらの地域の儼戯の発生と発展は、漢族との交流と漢文化の影響があり、少数民族の人々は稲の豊作や健康などを祈願するため、儼戯を演じたり儼神

を祀ったりした。そして民間の儺戯班が組織され、祭祀の儀礼をもたず、民衆の主な娯楽として発展と変容を遂げてきたことがわかった。文革後、多くの地域では、芸能や文化遺産としての儺戯が復活されることが見られる。

(2) 無病息災・五穀豊穰などを祈願するための日本の修正鬼会は、集落を単位としての神社や寺院（奈良県の念仏寺・薬師寺・法隆寺、国東市岩戸寺、豊後高田市天念寺など）で行なわれることが多いことが特徴であることがわかった。また仏教儀礼において、農耕祈願が行われることなど、庶民信仰と密接に結びついた行事であることが一つの特徴として指摘できる。特に地元の住民にとって、鬼会で走る「鬼」という役は、追い払われる悪いものとは限らず、人間の健康などのために悪いものを祓う存在としての性格を有していることも、重要な特徴であることがわかった。